

第5章

資料2 使用上の注意 頻出まとめ

※この表はすべての成分を網羅していません。手引きの別表5-1と5-2をご参照の上、ご活用ください。

イブプロフェン

| | | | |
|-----------|------------------|---|--|
| してはいけないこと | アレルギーの既往歴 | 本剤又は他のかぜ薬、解熱鎮痛薬 を使用（服用）して ぜんそく を起こしたことがある人 | アスピリン喘息を誘発するおそれがあるため |
| | 小児における年齢制限 | 15歳未満 の小児 | 一般用医薬品では、小児向けの製品はないため |
| | 出産予定日 | 12週以内 の妊婦 | 妊娠期間の延長、胎児の動脈管の収縮・早期閉鎖、子宮収縮の抑制、分娩時出血の増加のおそれがあるため |
| 相談すること | 妊婦又は妊娠していると思われる人 | | 妊娠末期のラットに投与した実験において、胎児に弱い動脈管の収縮がみられたとの報告があるため |
| | 授乳中の人 | | 乳汁中に移行する可能性があるため |
| | 基礎疾患等 | 次の診断を受けた人 ①肝臓病、②心臓病、③腎臓病、④全身性エリテマトーデス、混合性結合組織病、⑤胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン氏病 | ①肝機能障害を悪化させるおそれがあるため、②むくみ（浮腫）、循環体液量の増加が起こり、心臓の仕事量が増加し、心臓病を悪化させるおそれがあるため、③むくみ（浮腫）、循環体液量の増加が起こり、腎臓病を悪化させるおそれがあるため、④無菌性髄膜炎の副作用を起こしやすいため、⑤プロスタグランジン産生抑制作用によって消化管粘膜の防御機能が低下し、胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン病が再発するおそれがあるため |

アスピリン

| | | | |
|-----------|------------------|---|--|
| してはいけないこと | アレルギーの既往歴 | 本剤又は他のかぜ薬、解熱鎮痛薬 を使用（服用）して ぜんそく を起こしたことがある人 | アスピリン喘息を誘発するおそれがあるため |
| | 小児における年齢制限 | 15歳未満 の小児 | 外国において、ライ症候群の発症との関連性が示唆されているため |
| | 出産予定日 | 12週以内 の妊婦 | 妊娠期間の延長、胎児の動脈管の収縮・早期閉鎖、子宮収縮の抑制、分娩時出血の増加のおそれがあるため |
| 相談すること | 妊婦又は妊娠していると思われる人 | | 妊娠末期のラットに投与した実験において、胎児に弱い動脈管の収縮がみられたとの報告があるため。動物実験（ラット）で催奇形性が現れたとの報告があるため |
| | 授乳中の人 | | 乳汁中に移行する可能性があるため |
| | 基礎疾患等 | 次の診断を受けた人 ①肝臓病、②心臓病、③腎臓病、④胃・十二指腸潰瘍 | ①肝機能障害を悪化させるおそれがあるため②むくみ（浮腫）、循環体液量の増加が起こり、心臓の仕事量が増加し、心臓病を悪化させるおそれがあるため③むくみ（浮腫）、循環体液量の増加が起こり、腎臓病を悪化させるおそれがあるため④胃・十二指腸潰瘍を悪化させるおそれがあるため |

ブソドエフェドリン

| | | | |
|-----------|-------|---|---|
| してはいけないこと | 症状・状態 | 次の症状がある人 前立腺肥大 による排尿困難 | 交感神経刺激作用により、尿の貯留・尿閉を生じるおそれがあるため |
| | 基礎疾患等 | 次の診断を受けた人 ①心臓病、②高血圧、③甲状腺機能障害、④糖尿病 | ①徐脈または頻脈を引き起こし、心臓病の症状を悪化させるおそれがあるため、②交感神経興奮作用により血圧を上昇させ、高血圧を悪化させるおそれがあるため、③甲状腺機能亢進症の主症状は、交感神経系の緊張等によってもたらされおり、交感神経系を興奮させる成分は、症状を悪化させるおそれがあるため、④肝臓でグリコーゲンを分解して血糖値を上昇させる作用があり、糖尿病を悪化させるおそれがあるため |
| 相談すること | 授乳中の人 | | 乳汁中に移行する可能性があるため |
| | 基礎疾患等 | 次の診断を受けた人 腎臓病 | 腎臓における排泄が円滑に行われず、副作用が現れやすくなるため |
| | 併用薬等 | モノアミン酸化酵素阻害剤 （セレギリン塩酸塩等）で治療を受けている人 | モノアミン酸化酵素阻害剤との相互作用によって、血圧を上昇させるおそれがあるため |

第5章
資料2 使用上の注意 頻出まとめ

ジプロフィリン

| | | | |
|--------|-------|---|--|
| 相談すること | 基礎疾患等 | 次の診断を受けた人 ①てんかん、②甲状腺機能障害、甲状腺機能亢進症、③心臓病 | ①中枢神経系の興奮作用により、てんかんの発作を引き起こすおそれがあるため、②中枢神経系の興奮作用により、症状の悪化を招くおそれがあるため、③心臓に負担をかけ、心臓病を悪化させるおそれがあるため |
|--------|-------|---|--|

カフェイン

| | | | |
|-----------|----------------|----------------------------------|--|
| してはいけないこと | 症状・状態 | 次の症状がある人 胃酸過多 | カフェインが胃液の分泌を亢進し、症状を悪化させるおそれがあるため |
| | 基礎疾患等 | 次の診断を受けた人 心臓病、胃潰瘍 | ①徐脈または頻脈を引き起こし、心臓病の症状を悪化させるおそれがあるため、②胃液の分泌が亢進し、胃潰瘍の症状を悪化させるおそれがあるため |
| | 食品との相互作用に関する注意 | コーヒーやお茶等のカフェインを含有する飲料と同時に服用しないこと | カフェインが過量摂取となり、中枢神経系、循環器系等に作用が強く現れるおそれがあるため |
| | 連用に関する注意 | 眠気防止薬「短期間の服用にとどめ、連用しないこと」 | 眠気防止薬は、一時的に緊張を要する場合に居眠りを防止する目的で使用されるものであり、連用によって睡眠が不要になるというものではなく、短期間の使用にとどめ、適切な睡眠を摂る必要があるため |
| 相談すること | 授乳中の人 | 乳児に頻脈や不眠等を引き起こすおそれ | 乳汁中に移行する可能性があるため。乳児に頻脈や不眠等を引き起こすおそれがあるため |

芍薬甘草湯

| | | | |
|-----------|----------|-------------------------|------------------------------------|
| してはいけないこと | 基礎疾患等 | 次の診断を受けた人 心臓病 | 徐脈又は頻脈を引き起こし、心臓病の症状を悪化させるおそれがあるため。 |
| | 連用に関する注意 | 症状があるときのみ服用にとどめ、連用しないこと | うつ血性心不全、心室頻拍の副作用が現れることがあるため |

アルミニウム含有成分（スクラルファート、ケイ酸アルミン酸マグネシウム、合成ヒドロタルサイト、アルジオキサ等）

| | | | |
|-----------|-------|--------------------------|--|
| してはいけないこと | 基礎疾患等 | 次の診断を受けた人 透析療法を受けている人 | 長期間服用した場合に、アルミニウム脳症及びアルミニウム骨症を発症したとの報告があるため |
| 相談すること | 基礎疾患等 | 次の診断を受けた人 腎臓病 | 過剰のアルミニウムイオンが体内に貯留し、アルミニウム脳症、アルミニウム骨症を生じるおそれがあるため。使用する場合には、医療機関において定期的に血中アルミニウム、リン、カルシウム、アルカリホスファターゼ等の測定を行う必要があるため |

アミノ安息香酸エチル

| | | | |
|-----------|------------|---------|------------------------|
| してはいけないこと | 小児における年齢制限 | 6歳未満の小児 | メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため |
|-----------|------------|---------|------------------------|

タンニン酸アルブミン、カゼイン等（添加物）

| | | | |
|-----------|-----------|-----------------------------------|------------------------------|
| してはいけないこと | アレルギーの既往歴 | 本剤又は本剤の成分、牛乳によるアレルギー症状を起こしたことがある人 | タンニン酸アルブミンは、乳製カゼインを由来としているため |
|-----------|-----------|-----------------------------------|------------------------------|

してはいけないこと：授乳中の方は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること

| | |
|-------------------------------|----------------------|
| ジフェンヒドラミン塩酸塩など | 乳児に昏睡を起こすおそれがある |
| アミノフィリン水和物、テオフィリン | 乳児に神経過敏を起こすことがある |
| ロートエキス | 乳児に頻脈を起こすおそれがある |
| センノシド、センナ、ダイオウ、カサントラノール、ヒマシ油類 | 乳児に下痢を起こすおそれがある |
| コデイン類 | 乳児でモルヒネ中毒が生じたとの報告がある |

してはいけないこと：服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと

| | |
|---|---------------------|
| 抗ヒスタミン成分（ジフェンヒドラミン塩酸塩等）、コデイン類、催眠鎮静薬（プロモバルビタール尿素、アリルイソプロピルアセチル尿素）、止瀉薬（ロペラミド塩酸塩、ロートエキス） | 眠気等の懸念 |
| 抗コリン薬（スコポラミン臭化水素酸塩水和物等） | 眠気、目のかすみ、異常なまぶしさの懸念 |